ショウガ紅色根茎腐敗病の発生生態と防除法

山崎睦子・矢野和孝・竹内繁治

Ecology and Control of Pink Rhizome Rot Caused by *Pyrenochaeta terrestris* on Ginger (*Zingiber officinale*)

Mutsuko YAMAZAKI, Kazutaka YANO, and Sigeharu TAKEUCHI

要 約

ショウガ紅色根茎腐敗病の発生生態の解明と有効な防除法の検討を行った。その結果、本病害は土壤伝染ならびに種根茎伝染することが明らかとなった。また、6種類の植物に対して接種試験を行ったところ、ショウガから分離した供試菌株がメロン、トマト、ニラ、ネギおよびグロリオサに感染し、リンドウには感染しなかった。汚染土壤で露地栽培した場合の本病害の発生時期は、植付け後約2~3ヵ月後に根の一部に赤変を生じ、根茎には内部の水浸状を伴う表面が赤変となる病徴を生じた。収穫時に汚染土壤が付着したショウガ根茎は、15°Cで約7ヵ月間貯蔵しても発病しなかったが、25°C以上に遭遇すると約1ヵ月で発病した。また、貯蔵前に病徴のある根茎を15°C貯蔵したところ発病程度は進展し、同じ株を分割して得た外観無病徴の根茎も1ヵ月後にはわずかに病徴を呈した。本病原菌の菌糸の温湯処理による死滅温度については、45°C240分間以上、50°C10分間以上、55°C3分間以上であった。本病の防除法を検討したところ、ショウガ植付け前の土壤還元消毒、湛水処理、およびクロルピクリン(4ml/穴)による土壤消毒ならびに生育中のトリフルミゾール水和剤1,000倍希釈液の土壤灌注が有効であった。

キーワード：ショウガ，紅色根茎腐敗病，*Pyrenochaeta terrestris*，土壤伝染，種根茎伝染，寄主範囲，防除法